



槍・穂高連峰

兄弟姉妹登山で北アルプスへ

年に一回、私たち兄弟姉妹の登山旅行が行われる。今年は妹企画の「新穂高温泉～鏡平・紅葉の山歩き」である。参加者は76歳の長姉から、63歳の末弟まで男3、女2の兄弟姉妹と姪一人の6人。

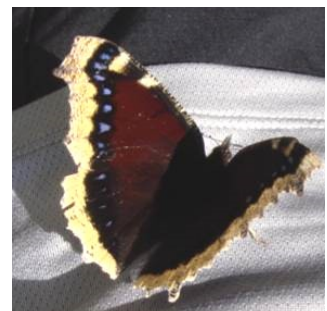
10月11日（月）朝7:59大阪発の特急「ワイドビューひだ25号」は飛騨高山駅に12:13着。駅前には東京からマイカーで参加の弟が出迎え。その車とバスとに分乗して新穂高温泉に。ここから今夜の宿わさび平小屋まで1時間強の林道歩きだ。

道は蒲田川沿いに小さくうねりながら、ゆるやかに高度を上げて行く。左右にそそり立つ山の斜面も、山小屋近くの落葉樹林も秋の色に染まりつつあるが、あと一つ冴えない感じだ。高所の紅葉はどうなっているだろうか

写真にならなかったツキヨタケ

小屋に到着するや否や、女3人は長年続けているキノコ観察と採集に出かけ、白いキノコを沢山採ってきた。ブナハリタケだと言う。そして夜、発光するツキヨタケの見学に全員で出かけた。大きなブナの倒木に妹らが言うツキヨタケは群生していたが、何

下 キベリタテハ



度覗きに行ってもついに発光現場の写真は撮れなかった。旅行後キノコ図鑑を開くと「発光性があることから月夜茸といわれるが、月のない真っ暗闇でない」と記述されていた。ちなみにツキヨタケは猛毒。

秋色の中を鏡平、更に稜線へ

12日、わさび平小屋で弁当を受け取って、ゆっくりと登り始める。標高2300mの鏡平山荘まで高度差900の登りだ。

林道から小池新道の急登にかかると眺望が開けてきた。左右、前方の高い稜線に向けて急斜面がせり上がっており、陽があたった処から秋の彩りが明らかにな



イタドリ原で休憩

って行くのだが、いずこもくすんだ感じで、ナナカマドさえも目を引くような色にはなっていない。半端な紅葉・黄葉をかこちつつ、正午ごろに鏡平山荘に到着。鏡池に逆さまに映った槍ヶ岳が出迎えてくれる。

そそり立つ槍ヶ岳、その右に穂高に続く一万尺の稜線、左には長い西鎌尾根、とアルプス屈指の山々を見ながら昼食。弟や妹が持参した多くの副食品や菓子をそれぞれの講釈を聞きつつ味わう。

割り当てられた部屋は、清潔で明るく、大きな窓から正面に槍ヶ岳が見える。ザックを置いて稜線をめざす。双六岳(2860m)ピストンの末弟は先行し、見る見るうちに登って行く。重たい写真機材を背負ったもう一人の弟は稜線の花見平(2600m強)まで上がって撮影、私と妹は弓折岳(2588m)まで登って眺望を楽しむ。槍～穂高連峰はもとより、遠く乗鞍、黒部五郎、鷲羽などなど、思い出のある山々 **下ナナカマドと穂高連峰**が岩壁と残雪とを光らせながら聳えている。

夕刻から冷え込み、それが奏功したのか、翌13日の下山途中の紅葉は一行を満足させたし、14日に乗った新穂高ロープウェイからの眺めも旅のフィナーレにふさわしく、アルプスの秋を満喫させるものだった。(以上143号)

